

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400152		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホームピアありた		
所在地	福岡市早良区有田7丁目1番20号		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果確定日	平成27年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

外出や慰問など年間を通し楽しい行事作りに力を入れています。入居者様、スタッフからの声を汲み上げ必ず笑顔になれる行事作りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年10月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ピアありた」は室住団地に近く閑静な住宅街の一角に位置する、小規模多機能と併設型の2ユニットグループホームである。母体法人は福岡市内各所で介護事業所を展開しており、来年からは隣接に特養も開設予定である。昨年からは外出機会を増やし、ユニットごとに月1.2回の外出を楽しんでおり、糸島や佐賀までのドライブを行い、入居者の意欲の沸き起こしにもつながった。地域とも友好な関係を築いており、保育園との交流や、団地の夏祭りにも入居者と一緒に参加をしている。ボランティアによるセラピードッグが毎月訪れており、入居者で楽しみにされている方も多し。レクなどの企画も、入居者と相談して自発的に楽しめるような行事を計画しており、毎年恒例の握り寿司のケータリングは非常に喜ばれている。昨年からは法人全体でのサービスの共有化も進めており、今後もサービス向上や地域交流の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に基本理念、基本方針、心得を説明指導を行っている。事務所の壁に掲げている。	3つのSを頭にした法人のサポート理念と、開設時の職員と話し合っったグループホーム独自の施設理念があり、各ユニットのスタッフルームに掲示している。ミーティング時にも唱和し、各職員の名札の裏にも入れることで共有している。「笑顔」を大切にして、ケア記録にも入居者の笑顔の出た瞬間を残すようにしている。	新しい職員も増えており、今の職員とも理念に関しての話し合いの機会をもってはどうだろうか。また、入職時のオリエンテーションなどで伝える機会をもっても良いのではないかな。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の保育園から定期的に慰問があり、入居者様達も楽しみにします。買い物は近辺の商店を利用しています。また、地域の夏祭りに毎年参加しています。	敬老の日には毎年、保育園の慰問がある。地域の運動会にも職員が参加し、2つの校区それぞれに行っている。室住団地の夏祭りには入居者も一緒に参加している。日常的にも近隣の散歩の時などに挨拶を交わし、ボランティアや団地のサークル「カトレア会」などの交流会も催されている。	法人とも共同して、地域も招くような行事を計画してはどうだろうか。また、ボランティアとの関わりを増やしたり、近隣の小中高校との交流も検討されてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族、民生委員、地域包括センターの方などに、施設で実践している介護、注意していたきたいことなどを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った内容はその日の内に記録を行い、すぐにスタッフが確認できるようにしています。また、中でも重要だと思われる内容は月に1回のミーティングの中で話し合いを持ちます。	併設の小規模多機能と一緒に開催し、自治会、民生委員、家族等が参加し、昨年からは市役所へも案内を始めて、参加にもつながった。取組みや現状報告を行い、意見や質問なども多い。家族には毎回2名ほどに案内し、結果は全家族にも郵送で報告している。	開催場所の関係で家族参加の制限もあるので、参加を増やすために、時には系列事業所での開催や、小規模多機能と同日別時間での開催なども検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や判断が難しい場合は事前に相談するようにしており、その際実態について説明を行っている。	相談事などあるときは、内容によって地域包括や市役所に電話しており、施設長やケアマネが主に担当している。運営推進会議に参加してもらって意見も頂き、成年後見制度に関して相談をしたり、地域包括とは協力体制をとってサービスにつながったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設けると同時に肉体的身体拘束はもちろんのこと、スピーチロックも全スタッフに禁止しています。ただし、安全面に配慮し、ご家族様の了解の下、臥床時のみ2名様センサーの使用を行っています。	1階の外玄関は防犯のため、職員による電子施錠をしているが、施設内は自由に動け、外出の要望には職員が付き添っている。各フロアごとに委員会を組織し、外部研修や伝達を行う。原則的に一切の拘束を行わない方針で、職員も拘束行為を理解してケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	現在の所、研修で虐待についての研修は行っていませんが、各スタッフがお互いを注意を呼びかける事で防止ができています。		

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に成年後見人制度を利用されている方が居られる為、スタッフには用意した資料に必ず目を通す機会を持って頂き、理解を深めてもらっています。	入居時に成年後見制度を活用する方がおり、必要な時には外部の関係機関とも連携して対応する。権利擁護に関してのミーティングや研修などによって職員も一般的な理解をしており、運営推進会議でも取り上げて報告している。説明用の資料やパンフレットが準備され、必要時に備えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、又は契約内容変更時は内容を説明した上で書面で同意を頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア入口に意見箱を設置したり、直接ご家族様と話をする機会を持ち意見を取り入れ運営に反映する事が出来ています。	意見箱を設置しているが、口頭で意見を聞くことが多く、何かある時にはすぐに連絡している。以前、入居時の健診に関しての意見から関係様式の変更も行った。入居者や家族の状況も踏まえてやりとりを行い、遠方の家族には電話をし、家族参加の親睦会も4月に開催した。	やりとりが少ない家族などの意見を聞き取る機会として、家族会の開催や、法人からの満足度調査やアンケートなどを検討されてはどうか。また、入居者の報告として、以前行っていたおたよりの定期的な発行などなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見を出し合い、できる事は積極的に取り入れ、難しい事は次のステップへの参考に取り上げています。	ユニットごとのミーティングが毎月有り、パート含めて全員参加している。毎月の会議から意見を取り上げて改善にもつなげており、直近でも尿とりパットの利用改善を行った。備品やレク、企画など活発に意見が出されている。日常的にも管理者と話したいことがあれば話しやすい。	ユニット同士のミーティングでケア改善などにつなげているが、事業所全体でのミーティングや話し合いなども行うことで、全体のベンチマークや取組につなげてみてはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アセスメント・自己評価シートを作成し、自己評価、上司評価、評価に基づく新し目標設定を行うこととしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時における年齢・性別による排除はおこなっておらず、職員の働く意欲・能力に応じた処遇を行っている。	男女含め20～60歳代まで幅広い年代の職員がおり、レクなどで得意な事を活かしたり、委員会活動で拘束や事故防止、地域などの役割を担って取り組んでいる。外部研修の案内もあり、希望したものには勤務として参加もしている。シフト調整や休憩場所、時間などもお互いに協力しながら配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修で人権を尊重する為の勉強会をおこなっています。	福岡市が主催する研修を職員が受講し、同月に事業所内でも資料回覧と伝達講習を行っている。虐待防止や身体拘束などとも関連して毎年1回程度は外部研修の受講もしている。	

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など全員参加できるようスケジュールを組むようにしている。外部研修がない時は内部研修を行い、自分で勉強して、それを発表する場所を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在既存のネットワークには加入していないが、今後加入を検討する。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期アセスメント時は必ず本人様と対面し、本人様の本音が聞けるような関係を築く事にしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じアセスメント回数を増やす等して対応しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が必要としているサービスを見極め施設で補えないサービスは外部のサービスを利用する等し対応しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	イベント等、一緒に楽しんだり、可能な限り食事を一緒に食べたりする等して同じ時間を過ごすように努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者だけではなく全スタッフにご家族様との交流を持って頂き、同じ目標を目指すパートナーになるよう努めています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の上承を得て、電話を繋いだり面会などを自由に行えるようにしています。	以前は昔なじみの場所に個別ケアで連れて行くこともあった。遠方でも家族や関係者と協力して出来るだけの支援を行っている。入居前からの知人が訪ねてくれることもあり、趣味や特技などすることもある。年賀状などは協力して作成して発送を手伝ったり、一時帰宅や外泊なども出来る人には支援している。	

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の仲を見極めて仲の良い方々はさらに仲が深まるよう、あまり関わらない入居者様同士はどうすれば接点を持てるか考慮し実行に移しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様同意の上で面会に行ったり、ご家族様の相談に乗る等しフォローを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1度は再アセスメントを行い希望や意向を確認しています。また、入居者様の訴えがある時等、不定期で話し合いを持つなどしています。	独自様式を使ったアセスメントには家族の意向などもしっかり聞き取っており、面会時にもゆっくりと時間をとり、ケアマネージャーが主に受け持っている。本人からも、夜勤の時などゆっくり話せる時間を使って気持ちを引き出すことに努め、情報の随時の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に聞き込みを行い必要に応じサービス関係者と情報を共有する事で経過や把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的にケア記録への記入、確認を行ったり、申し送り等で変化が早期発見できるよう努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には毎月のモニタリングの内容を参考にケア会議で意見を出し合い、担当者会議を行います。	職員は担当制でアセスメント後にケア会議を行い、全員で話し合っている。ケアプランは3ヶ月で見直し、プラン目標毎のモニタリングや毎日のケア記録でも日々の状況と、プランの実施状況をチェックしている。それぞれ1日1枚の記録で詳細に管理され、「ピアありた」の記録様式が法人の統一様式にも採用された。変更時には家族や専門職種からも意見をもらっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者様、個別のケア記録に記入し特別に記録が必要な方は別紙を用意し情報が共有できるようにして、ケアプランの見直しの参考にしています。		

H26自己・外部評価表（GHピアありた）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事は、柔軟に対応したいと考えている。しかし、他入居者様に対しても公平なものでなければならないと考えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園の慰問や芸能ボランティアの催しに感謝しながら楽しむことができる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居開始時に本人様、ご家族様の希望を考慮し病状に合わせた医療関係を利用しています。	希望するかかりつけ医を選択し、医師との連携記録も入居者ごとに管理している。事業所の提携医を紹介することもあり、訪問診療も受けられる。通院支援は基本は家族が行い、緊急時などは事業所も支援する。ノートを使って情報共有し家族にも報告している。訪問歯科による口腔ケアも毎週行われていた。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に同行している看護師や外部受診時の受診先看護師との連携に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の相談員や理学療法士等と連絡を密に行い早期発見に向けての支援をしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた入居者様の今後について担当者会議を行ったり受け入れ先、医療機関との連携を取ったりと支援を行えています。	今までに看取った方が1名おり、基本的には緊急時には病院へお連れするが、希望があれば医師や家族とも協力してできることをしていく方針である。市が主催するターミナルケアにも参加し、伝達も行っている。	今後の受入に関して、職員との話し合いや、継続的な研修など、事業所の看取り方針に沿った準備が進められていくことに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応についての内部研修や急変時のマニュアルを整理しています。		

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導と協力を得ている。年2回の避難・消火訓練に万遍なく職員が参加できるように実践している。	年2回の防災訓練は消防署が立ち会った総合訓練を行い、夜間想定を含めて施設全体で取り組んでいる。入職時に防災マニュアルを指導し、理解を進める。スプリンクラーや水、食料などの備蓄物も準備され、AED設置もなされている。	緊急時の地域との協力体制を築くために、近隣者や家族への案内や参加をお願いしたり、連絡網への記載などが進められることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特例を除き、全入居者様を名字で〇〇さんと呼び過去の経歴に囚われず平等に接する事ができている。	基本的には周囲にも配慮して、入居者への呼びかけを統一するが、場面場面で変えたり、柔軟に対応している。慣れによる失礼のないように、振り返りもしており、以前は内部研修でビジネスマナーを取り上げたりしていたが、最近ではしていない。写真の利用も同意書を交わし、同意を得られた物のみの利用に留めている。	以前されていた、マナー研修や、外部研修への参加など、事業所全体でのスキルアップの取組みが継続されていくことが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的なアセスメントで希望を聞きケア会議で実行に向けての支援を話し合います。また、生活の中で出来る限り自己決定が出来る支援を行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを作成しているが、それに囚われる事無く食事や就寝時間を本人様のペースに合わせて変更する事もあります。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、身だしなみに必要な道具を揃えたり、女性は化粧やマニキュア、男性は髭剃りを行う等して支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には各役割を振って一緒に準備や片付けを行うことで達成感を感じて頂き、食べる事以外での楽しみをもって頂いています。	業者のメニューと原材料配達があり、各ユニットで職員が調理している。出来る人には下ごしらえや配下膳などを手伝ってもらうこともあり、おやつレクなどで一緒に調理することもある。行事食や仕出しなどをしたり外食したりすることもあり、食事を楽しんでいる。食べたいものや感想なども聞き取り、行事時などに反映もさせている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養のバランス等は食材配達業者が行い、食事量や水分量は毎回記録を行ない変化がある時は状態に応じて支援方法を変え対応しています。		

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しを全員に行い、出来る範囲でのケアをして頂いています。磨き残しなどはスタッフが介助しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄を理解し、本人様が持っている能力を目いっぱい活用し一つでも上の排泄方法や下着を使用した支援が出来ます。	排泄チェック表が1日1枚全員分管理され、自立した方にも聞き取ってチェックしている。それぞれの状態を見て、タイミングを読み取って介助し、拒まれた際も時間や担当を変えて排泄支援している。職員から意見を出し合っってその人にあつたパットなどを試し、夜間でもなるべくトイレ排泄出来るようにポータブルトイレを利用することもある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の運動や牛乳やヨーグルト等を摂取して頂き便秘に対する対策を行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ご家族様や本人様の希望を出来る限り考慮し入浴回数の変更や曜日の変更を行っています。	広めの浴室で、浴槽を中心に両脇に2箇所洗い場があり、介助もし易い。週2回昼からの入浴が基本だが、希望すれば増やすこともある。毎回お湯も張り替えており、季節の行事浴などすることもある。拒まれた際も柔軟に働きかけ、週2の入浴は確保している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力、病気などに合わせ各入居者様のペースで休憩や就寝時間を変えていき睡眠への支援を行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各スタッフは薬の効能、副作用等の情報を確認し一人一人の服薬内容を確認し支援に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やレクレーションを実施し、個々に応じての役割を持って頂き充実感のある生活を支援しています。		

H26自己・外部評価表 (GHピアありた)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様希望時はできる限りで職員の増員等を行い外出への支援を行っています。また、ご家族様や関係者様に外出の支援を協力して頂いています。	昨年から全体の外出機会を増やし、ユニットごとの外出で遠方へのドライブや買い物に行ったり、季節折々のイベントをしている。日常的な散歩でも近所のスーパーの買い物、河川敷などにも行き、車いすの方も同じように外出している。	事業所での外出機会が多いので、時には家族にも案内して、一緒に外出を楽しむ場を設けてはどうか。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品を管理できる入居者様にはできる限りで管理して頂いています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が来た際には本人様に取り次ぎを行い、本人様から希望があればできる限り行える様支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には清潔感を保ち、必要のない物を置かない環境作りをしています。内装も不快にならない程度で写真を貼る等しデコレーションしています。	フローリング張りの広いホールには南向きの窓から、明るい日差しが差し込んでいる。観葉植物もよく世話がされており、風通しもよく木の暖かみのある自然な雰囲気である。入居者もそれぞれが自分の定位置でダイニングテーブルやソファなどでくつろいでいる。ユニットによってオレンジや茶系と雰囲気を変え、配置も変えてそれぞれの空間づくりがなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できる限り気の合った仲間と同じテーブルにして共有空間を居心地の良い場所作りを行っています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物を自宅より持って来て頂き自宅に近い環境で居心地の良い場所作りを行っています。	ホールからフローリングで続いたバリアフリーで、介護ベッドや衣装箆等が事業所で備え付けられている。テレビやソファなども持ち込める広さがあり、各居室とも窓外の眺めは開放的である。温湿計もついて適温に合わせ快適に過ごせるよう配慮がなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで手すりを設置する等し自立した生活ができるようにしています。		